

資料紹介『女用花鳥文章』

江戸時代に庶民層にも教育が普及してくると、庶民を対象とした様々な往来物（教科書）が数多く作られました。男子用往来物に遅れて、女子教育の必要性から、女子には女子用の往来物も発行されました。内容は女性が心得るべき教えや戒め、身につけるべき教養や諸芸、手紙文例などです。

『女用花鳥文章』は、1729年に発行された女子用の往来物です。和歌、字訓、裁縫の仕方などが多くの挿絵とともに書かれています。

桜井市兵衛家文書(当館蔵) N0055-00923



講座案内

◎フィアラ先生の世界をつなぐゼミナール◎

『古事記』を読む
第6回 古事記と古代日本語の魅力

日時：3月5日（土）13:30～15:00
講師：カレル・フィアラ
（文書館副館長・福井県立大学名誉教授）
会場：文書館研修室
定員：40名

『古事記』は古代日本文化の珠玉です。その内容は、『日本書紀』で語られる正史からはみ出しており、神話、説話、歌謡に満ち溢れています。



また、その言葉は、言語の文化が音でしか伝えられなかった時代の名残をとどめています。今回は、古事記時代の日本語の表現に触れながら、今までの講座の内容をまとめます。

- *『新版古事記 現代語訳付き』中村啓信訳注（角川ソフィア文庫）を用意して、受講してください。
 - *事前の申込みが必要です。
 - *電話・FAX・メールにてお申し込みください。
- 電話 (0776) 33-8890 FAX (0776) 33-8891
E-mail bunshokan@pref.fukui.lg.jp

下張り資料のはがし方実習

内容：実習を通じて屏風・襖等の下張りの構造や、文書のはがし方の基本を体験的に学びます。

日時：3月9日（水）13:30～15:30
講師：平田正和氏
（株式会社工房レストア 代表取締役社長）
会場：文書館研修室
定員：20名（要申込）



提供：尼崎市立地域研究史料館

ちょっと昔の3月風景



▲子どもの夜回り 昭和56年 68309



▲梅娘 昭和56年 68311

3月の開館日カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

は休館日です



■ご利用案内■
開館時間 午前9時から午後5時まで
■フレンドリーバスをご利用ください■

■今月の展示■

福井市街では、たび重なる大火や水害、空襲・地震によって町の自治や町人の暮らしを知ることでできる資料が驚くほど残されていません。

文書館では、20年前に屏風の下張りからまとまって見つかった福井城下「寄合所」の資料をこのたび整理し、公開することになりました。これらの資料からわかる200年前の人びとの暮らしを紹介します。

屏風の中から貴重資料が出てくるとは仰天じゃな。まさに歴史の宝石箱や〜。

福井県文書館月替展示 2016.1.29-4.10

屏風の下張り

- 寄合所の資料からよむ城下の暮らし -

タイムカプセル



下張りから、200年前の福井城下の資料が！

福井城下の「寄合所」は、城下の11町組の有力町人から選ばれた組頭が運営する町奉行所の下部組織であり、その合議「寄合」が開かれる場でもありました。

この資料は、組頭や町輪番庄屋が回覧し、受領印を押して、ふたたび寄合所に戻されたものが、屏風の下張りとしてリサイクルされたために、まとまって残ったものです。

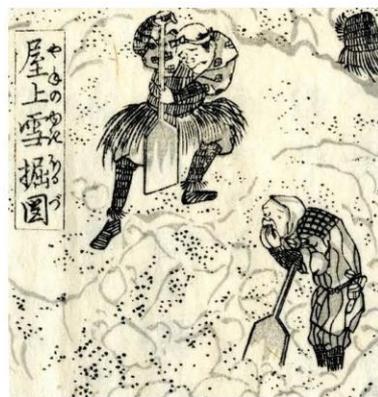
資料からは、それまで知ることのできなかつた200年前の寄合所の具体的な業務と役割を知ることができます。



城下寄合所のしごと

町奉行所からの触書や通達の町民への伝達、領内各所へ順送りに運ばれる通知の頻繁な発送、そして実にさまざまな人足の徴用などが、この資料からわかる寄合所のおもな業務です。

さらに、株仲間札の配付や冥加金の上納の仕方、参勤交代をめぐる儀礼や年中儀礼の打ち合わせ、緊急的な事態への協議などのために、寄合もたびたび開かれていました。



大雪の際は、雪かきのべ2万人の雪かき人足が！
鈴木牧之『北越雪割』より